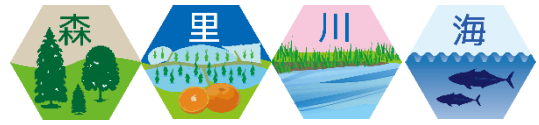


片浦地区



【地区の自然環境概要】

片浦地区は、森、里、川及び海の要素を持つ地区です。

北西部は「富士箱根伊豆国立公園」区域にあたり、箱根外輪山の雑木林が広がる自然豊かな地域です。西部から中央部にかけては主にスギ・ヒノキの人工林が広がり、南北ほぼ中央を西から東に白糸川が相模湾に向かい流下しています。この地域は、森林や溪流環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

中央部から東部にかけてはミカンやレモン畑などの果樹園が広がり、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、白糸川の北側を牧谷川や清水川、玉川が相模湾に向かい流下しています。

東側で5 kmにわたり相模湾に面する海岸は、貴重な自然の磯浜海岸及び砂浜海岸が残っており、海浜を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、広大な海は魚類等の動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

森林や果樹園、河川、海岸、それぞれの環境を利用する動植物が生育・生息し、多様な動植物が見られます。希少種やその地域特有の種の確認も多く、生育・生息の場として大切に守っていききたい環境です。

- 人工林や二次林が大半を占め、スギやヒノキ、スダジイ、クヌギ、クロモジ、モミジガサ、リョウメンシダ、アオキ等の多くの植物が生育し、ニホンジカ等の哺乳類、ヤマガラやセンダイムシクイ等の鳥類、モリアオガエル等の両生類、キロトラカミキリ等の昆虫類など、森林環境を特徴づける種が生息しています。¹
- 中央部から東部に広がるミカン畑では、近年の地球温暖化に伴い分布を拡大しているナガサキアゲハが見られます。²
- 根府川では、本来は熱帯から亜熱帯性の植物であるハスノハカズラ（絶滅危惧種）が、県内で唯一生育しています。また、ヤマシャクヤクやサクラガンピ（絶滅危惧種）等の山地で見られる希少な植物も生育しており、特にヤマシャクヤクの群落は県内でも珍しいです。³
- 白糸川河口部の海岸には岩浜が広がり、ハマダイコンやイソギク等の海浜植物、オオミズナギドリやイソシギ、イソヒヨドリ等の鳥類、ハマバハサミムシ等の昆虫類など海浜性の動物が生息しています。⁴また、標高の高い森に生息しながら海岸に数 10 羽で海水を飲みにくる生態を持つアオバトも確認されています。⁵魚類では、溪流等流れの速い環境に生息するボウズハゼやルリヨシノボリが見られます。⁶

¹ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

³ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

⁴ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁵ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

⁶ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

- 石橋から江之浦海岸にかけては岩礁地帯が続いており、伊豆諸島特有の植物であるシマホタルブクロなどが確認されています。⁷



ニホンジカ

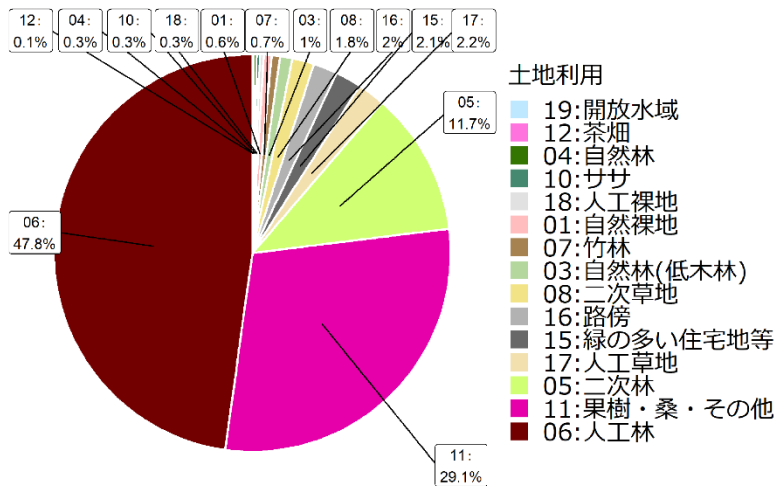


モリアオガエル（幼生）

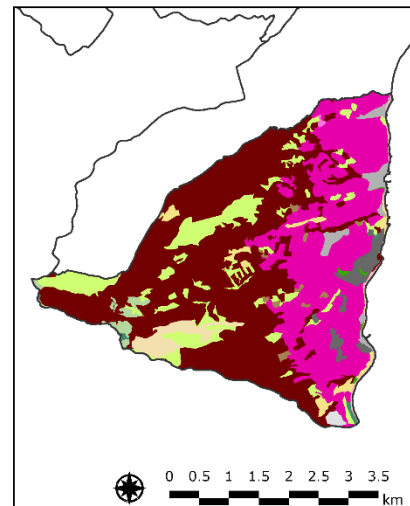


イソシギ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、西部から中央部にかけて人工林や二次林等が広がり、森林環境が約 6 割を占めています。中央部から東部にかけては、主に果樹園が広がり、土地利用の約 3 割を占めています。沿岸部では自然裸地や路傍、緑の多い住宅地等が広がっています。⁸



片浦地区の土地利用割合



片浦地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給や生活環境の調整など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「米神漁港」や「江之浦漁港」、「根府川駅」から相模湾に降りた周辺は釣り場として利用されています。また、周辺にはダイビングスポットが複数あり、夏には「江之浦漁港」で海水浴を楽しむことができます。
- **自然体験・観察の場**：ほぼ中央を西から東に流れる白糸川では、河口部近くの「白糸川鉄橋」が、その景観の美しさから「神奈川の橋 100 選」に選定され、青い海と真っ赤な鉄橋のコントラストが美しいとして列車の撮

⁷ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

⁸ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

影地としても有名です。⁹また、白糸川上流部に大小複数ある「**白糸の滝**」は、周囲の緑の中に豊かな水量の滝がかかり美しく、観光資源として活用する動きがあります。¹⁰

- **教育施設**：「**片浦小学校**」では、恵まれた自然環境と温かな人間関係の中で生活できる小規模特認校として、学校教育を推進しています。¹¹
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「**寺山神社**」や「**大美和神社**」、「**米神神社**」、「**子之神社**」¹²では、例大祭で漁業・海運と関わりの深い「**鹿島踊**」が踊られ、古くから生活の営みの心の支えとなるなど自然と深いつながりがあります。

◆「**鹿島踊**」

鹿島踊は、相模湾の西岸小田原市石橋から、静岡県伊豆町北川までの 22 箇所の神社で行われ、県下には 10 箇所ありましたが、現在は中絶しているところもあります。これらの神社に共通する点は、一社を除きすべて海に面している点です。そこで考えられるのは、漁業・海運との関係です。背後は険しい崖が迫り、前は荒海というこの地方は、石材や木材運搬の主要地でもあり、その運輸を船に頼っていました。このような事から鹿島踊は、悪疫退散・村落防衛や航海安全の呪芸（まじない）で、平坦な農地に恵まれない人々に信仰の糧を与える芸能となりました。しかし、その定着年代は不明です。なお、「**寺山神社の鹿島踊**」は、神奈川県無形民俗文化財に指定（昭和 46 年（1971 年）3 月 30 日指定）されています。¹³

～食のつながり～

- **果樹**：中央部から東部にかけてはミカンやレモン畑などの果樹園が広がり、市内でも上位の面積を保有しています。
- **特用林産物**：乾シイタケや生シイタケなどの特用林産物が生産されています。¹⁴
- **魚介類**：「**米神漁場**」や「**石橋漁場**」¹⁵では、小田原市の沿岸漁業の大半を占める定置網漁が行われ、新鮮な魚介類を供給しています。

～生活環境とのつながり～

- **防災・減災**：135 号線沿いの海岸線の一部には松並木が残っています。海岸線沿いの松並木は、海岸沿いの街並みを作るとともに、一般的に防砂・防潮の役割を持つと言われています。
- **大気調整**：植物には光合成を行う際に二酸化炭素（CO₂）と併せて大気汚染物質を吸収する機能があります。工場等から発生する汚染物質が大気中で変化した二酸化硫黄（SO₂）の吸収量を評価¹⁶すると、市内で 1 位となります。
- **気候調整**：水の蒸発による潜熱効果は周囲の気温を低下させる機能があります。水の蒸発散量を評価¹⁷すると、市内で 2 位となります。

⁹ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課，平成 19 年（2007 年））

¹⁰ 参考：小田原市自然環境調査分析・評価等委託業務 ヒアリング調査結果

¹¹ 出典：おだわらみどりの創生プラン（小田原市，平成 28 年（2016 年））

¹² 「子之神社」における例大祭の現在の実施状況は不明

¹³ 小田原市 HP 指定文化財 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/intangible/muukeiterayama.html>

¹⁴ 出典：神奈川県西地域県西総合センター森林保全課資料

¹⁵ 出典：小田原の地魚（株）小田原魚市場，平成 29 年（2017 年）

¹⁶ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

¹⁷ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

- **水の調整**：森林などの生態系には、降水を地下へ浸透させるなどして緩やかに流下させる機能があります。その機能の一部である地下水への涵養量を評価¹⁸すると、市内で1位となります。
- **土壌の調整**：樹木や草などの植物には、根により土壌を保持する機能があります。森林や農地の持つ土壌流出防止量を評価¹⁹すると、市内で1位となります。また、土壌に含まれる栄養塩類は河川へ流入し、植物プランクトンのエネルギー源となりますが、過剰に供給されると水質悪化につながります。植物の根が保持する土壌により、河川へ流入する栄養塩類の量を調整することができます。土壌による栄養塩類（リン酸）の維持量を評価²⁰すると、市内で1位となります。
- 上記の評価結果は、地区の大部分を占める森林により、得られている効果であると考えられ、地区内だけでなく周辺地域の気候や気候、水質等の生活環境もよくしています。

【地区で見られる特徴的な自然】

国立公園区域や特定植物群落等に指定されるなど、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **国立公園・自然環境保全地域・特定植物群落**：北西部の「箱根外輪山」には、主に落葉広葉樹からなる二次林が残されており、「富士箱根伊豆国立公園」の第3種特別地域にあたります。この地域は、特定植物群落（環境省選定）²¹、神奈川県自然環境保全地域²²にも指定されています。

国立公園概要

国立公園名称	特別地域名称	区域	地区の概要
富士箱根伊豆国立公園	外輪山	大字石橋、大字久野、大字根府川及び大字早川の各一部	箱根外輪山の外壁部分で、一部に国有林、分譲地があるほかは、広葉樹に覆われた山林となっている。

※出典：富士箱根伊豆国立公園（箱根地域）公園計画書（環境省,平成27年（2015年））

特定植物群落選定理由

名称	選定理由
箱根外輪山の雑木林	原生林もしくはそれに近い自然林、郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

※出典：第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（環境庁自然保護局生物多様性センター,平成12年（2000年））

神奈川県自然環境保全地域概要

名称	指定年月日	地域の特徴
片浦・早川	昭和49年（1974年）7月1日	箱根外輪山の南斜面で南に相模灘を臨み北側は国立公園に接する地区で、スギ、ヒノキの植林地とモミ林、風衝低木林がある
真鶴	昭和49年（1974年）3月15日	ほとんどがスギ、ヒノキの植林

※出典：神奈川県 HP 神奈川県自然環境保全地域の指定状況 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f10578/p34320.html>

¹⁸ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

¹⁹ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

²⁰ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

²¹ 特定植物群落：わが国の植物相を形づくっている植物群落のうち、規模や構造、分布等において代表的・典型的なもの、代替性のないもの、あるいはきわめて脆弱であり、放置すれば存続が危ぶまれるものなどについて、その実態を把握し、保護対策を検討する必要があるとして、環境省が実施する自然環境保全基礎調査で特定植物群落に選定されたもの

²² 自然環境保全地域：森林、草原、河川、湖沼、海岸若しくは海面の区域又は自然環境がこれらに類する区域で、自然的社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要なものとして知事が指定した地域

- **神奈川県生物多様性ホットスポット**：「白糸川河口」は、希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域として、神奈川県生物多様性ホットスポット（NPO 法人神奈川県自然保護協会選定）に選定されています。

神奈川県生物多様性ホットスポット選定理由

名称	選定理由
白糸川河口	希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域

※出典：かながわの自然 No.67（NPO 法人神奈川県自然保護協会,平成 30 年（2018 年））

- **重要地点**：平成 29 年（2017 年）～30 年（2018 年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、「箱根外輪山の雑木林」は、重要な自然として多数指定を受けているため、将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。また、現地調査結果を踏まえ多様性が高いと評価された現地調査地点「陸域 No.25（江之浦の人工林及び農耕地）」を、同様に重要地点として選定しました。



片浦地区の自然環境マップ